

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 4 月 22 日

豊 田 市 長 殿

提出者

住 所 愛知県豊田市配津町家下5番地1

氏 名 東洋生コン株式会社

代表取締役社長 鈴木 郷

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0565-21-5117

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	東洋生コン株式会社豊田工場
事業場の所在地	愛知県豊田市配津町家下5番地1
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	60:生コンクリート製造
② 事業の規模	生コンクリート売上高(前年度実績)約 94,000 万円
③ 従業員数	9人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	廃棄用コンクリートの固化 → 一次破碎 → 再生処理業者に委託して再資源化

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

代表取締役

↓

工場長

↓

工場次長

↓

再生処理業者

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスコンクリート陶磁器くず	
	排出量	4,940 t	t
	(これまでに実施した取組) 生コンクリート納入先への「発注量の適正化の依頼」		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスコンクリート陶磁器くず	
	排出量	5,000 t	t
	(今後実施する予定の取組) 生コンクリート納入先との「廃棄物処理を要する場合の責任区分の明確化」		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 当工場は、生コンクリート製造工場であり、その他の廃棄物はありません
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスコンクリート陶磁器くず	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスコンクリート陶磁器くず	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスコンクリート陶磁器くず	
	全 処 理 委 託 量	4,940 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	4,940 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

特になし

(第5面)

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスコンクリート陶磁器くず	
	全 処 理 委 託 量	5,000 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	5,000 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 生コンクリート納入先との「廃棄物処理を要する場合の責任区分の 明確化」		
※事務処理欄			